

聞きたい

新型コロナウイルス

斗南病院長 奥芝俊一さん(67)

最前線の医療者守って

中止し、院内を消毒しました。接触した職員は保健所に検査してもらい、全員が陰性でした。感染拡大がな

いことを確認し、17日に外来診療を再開しました。患者さんや関係者にはご心配をおかけしました。病院には、5日に感染者

だと発表された男性がその2日前に来院し、この看護師が問診しました。男性は定期受診で発熱などの症状はなく、両者はマスクを着けて15分ほど接しました。

専門家によると、マスクを着けている人同士の接触は感染リスクが低いとされています。そうした中で感染が疑われる事態が起き、わからぬことが多いウイルスの怖さを感じました。

保健所からは外来を休止するか否かは、病院の判断に任せると言われました。こうした事態は前例がないので悩みました。病院が外来を休むのは大変です。通院している患者さんは「薬がない」と困ってしまいま

す。治療を中断したら命の危険にさらされる人もいます。ただやはり、万が一、院内から感染を広げてはいけないと考え、休止を決めました。決定後は職員が患者さんに電話で事情を説明する作業に追われました。

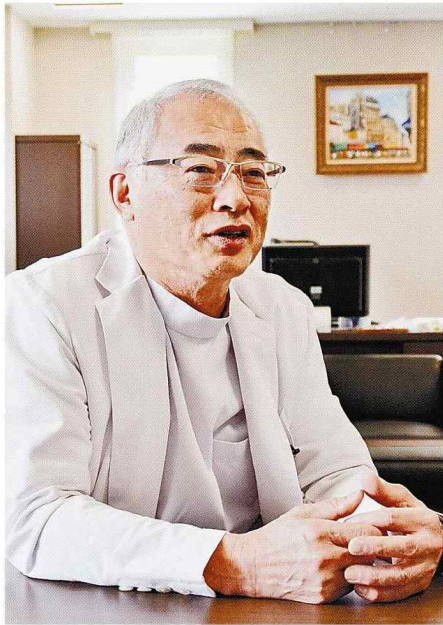
診療再開後は感染予防のため、職員が入り口で来院者に声を掛け、体調をチェックし、発熱などの症状がある患者さんは別室で待機してもらっています。一部の患者さんからは「コロナが怖いから処方箋だけ送ってほしい」との電話が来ています。病院を中傷する内容のメールや電話もあります。感染者が出たことで、まるで病院が汚染されているかのよう誤解する人がいるのは残念です。

医療従事者は自分がいつ感染するかわからない中、使命感から懸命に頑張っています。医療従事者用の防護服が潤沢にあればいいですが、業者に注文しても在庫がないため、現場はマスクなど最低限の装備で対応しています。中には新型コロナウイルスに感染している人がそうとは知らずに来院してくる可能性もあります。

感染の有無を調べる検査は大切ですが、政府には医療現場の態勢を整えた上で進めてもらいたいです。まず防護服は必要ですし、最低限、マスクを病院に十分供給してほしいです。既に多くの病院でマスクが足りず、連携する病院やクリニックで融通するなど助け合っています。仮に医療従事者や患者の感染が増え、患者の受け入れを停止せざるを得ない病院が複数出れば、地域医療が崩壊しかねないと危惧しています。

政治、行政の関係者には、最前線に立つ医療従事者を守らなければ、市民も守れないことを改めて肝に銘じてもらいたいです。

(聞き手・田鍋里奈)



おくしば・しゅんいち 小樽市出身。東京医科大学 院修了後、北大第2外科入局。腹腔(ふくくう)鏡手術が専門で、食道がんや胃がんなどを中心に診療。2014年から現職。医学博士。

病棟の外来を担当している看護師が今月10日夜、新型コロナウイルスに感染したことが判明しました。このため11日には外来診療を

病棟には、5日に感染者

だとして発表された男性がその2日前に来院し、この看護師が問診しました。男性は定期受診で発熱などの症状はなく、両者はマスクを着けて15分ほど接しました。

診療再開後は感染予防のため、職員が入り口で来院者に声を掛け、体調をチェックし、発熱などの症状がある患者さんは別室で待機してもらっています。